

# 長雨・日照不足及び高温に対する農作物等管理技術対策について

平成28年9月28日  
埼玉県農林部

8月22日の台風9号上陸に伴う大雨以降曇雨天が続いています。また、9月26日発表の「日照不足に関する埼玉県気象情報」では今後10日間程度、日照時間が少ない状況が続くと予想されています。

一方、9月26日発表の「高温に関する異常天候早期警戒情報」によると、関東甲信地方では、10月1日頃からの約1週間、気温の高い状態が続く見込みです。

長雨・日照不足及び高温に対し、以下のとおり農作物技術対策をとりまとめましたので、参考にしてください。

なお、今後も最新の気象情報に留意してください。

## 水 稲

- 1 日照不足で深水管理が続くと根の活力は低下するので、落水までは間断灌水や浅水管理（雨を考慮し無理な入水はしない）に移り、根の活力を低下させない。
- 2 刈取適期は、積算気温だけでなく帯緑歩合を見て判断する。
- 3 穂発芽や胴割等の品質低下に注意し、適期刈取りに努める。
  - 収穫期に到達したほ場では速やかに収穫する。
  - ほ場が軟弱な場合には、水尻を切り暗渠排水の栓を開いて乾燥化を早める。
  - 排水側が高く滞水しやすい場合は、外周に溝を掘るなどして、排水を促す。
  - 収穫期に至る前に倒伏した場合は、速やかに排水しほ場の乾燥を早め、可能な場合には引き起こして、穂の乾燥を早める。
  - 倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 4 週間天気予報等に注意し計画的に作業を行う。
- 5 ほ場が軟弱な場合は、扱胴に適切な流量を確保できる程度に作業速度を遅くし、高刈りで泥の混入を抑える。
- 6 高水分籾は1日程度通風乾燥で籾の表面水を除去してから火力乾燥を行う。

## 大 豆

- 1 茎葉が軟弱になると葉焼け病、多湿になるとべと病、紫斑病などの病害の発生が助長されるので、必要に応じて防除する。
- 2 降雨による滞水を防ぎ、ほ場の乾燥を速めるために、排水路の点検、再整備

を行う。

- 3 里のほほえみは難裂莢品種であるが、登熟後期の雨は莢内で腐敗粒が発生するので、成熟期に達したら早めに収穫する。

## そ ば

- 1 降雨による滞水を防ぎ、ほ場の乾燥を速めるために、排水路の点検、再整備を行う。

## 野 菜

### ◎露地なす

- 1 日照不足により果実肥大の遅れや着色不良も見られているので、受光態勢を良好にするため整枝・誘引、摘葉管理を適切に行う。また、着果負担軽減のため早めの収穫につとめ、形状不良果や病果を早めに摘果するなど草勢維持と品質確保に努める。
- 2 茎葉の繁茂やなり疲れにより、うどんこ病の発生が懸念されるので、薬剤による早期防除に努める。
- 3 褐色腐敗病等の発生が懸念されるので、早期に病果の摘除を行うとともに、適切な薬剤防除を行う。

### ◎いちご

- 1 日照不足に伴う軟弱な生育により炭そ病の発生しやすい環境にあるため、定植期までは病害の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。
- 2 晴天の日中を除き遮光資材の被覆は除去し、できるだけ光線をあて徒長しないよう苗を育成する。特に、活着が十分でない株が急に強い光線にさらされると萎れを生じることもあるので状況に合わせて適宜行う。
- 3 日照不足により根張りが悪く、軟弱徒長の生育となるので、温風暖房機、換気扇、循環扇を活用して施設の換気に努めるとともに、少量かん水につとめるなど適度な土壌水分管理を行い、根の活性を高める。

### ◎抑制きゅうり

- 1 日照不足により根張りが悪く、軟弱徒長の生育となるので、温風暖房機、換気扇、循環扇を活用して施設の換気に努めるとともに、少量かん水などにより適度な土壌水分管理を行い、根の活性を高める。

天候回復時の急な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるので、遮光資材の利用や葉水を行って急激な蒸散を抑制する。

- 2 うどんこ病、べと病、褐斑病等が発生しやすい条件なので、ハウス内の換気通風に努め、早期発見に努めるとともに予防防除を行う。

### ◎ねぎ

- 1 軟腐病・白絹病の発生がみられるため、早期発見に努めるとともに定期的な薬剤防除を行う。
- 2 気温が低く推移すると小菌核腐敗病の発生が懸念されるため、土寄せ前は必ず薬剤防除を行う。

### ◎ブロッコリー、キャベツ

- 1 定植済みのほ場では、天候が回復次第早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 2 育苗中の苗は、苗床やセルトレイ内の土壌の適湿が維持されるよう不必要なかん水を避け、根群の発達を促進する。  
なお、天候回復後の急な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるので、遮光資材の利用や葉水を行って急激な蒸散を抑制する。
- 3 多湿によりべと病・黒腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

### ◎こまつな・ほうれんそう等の軟弱野菜

- 1 日照不足により、葉色が淡く軟弱な生育となり、日持ち性も低下しやすいので、収穫5～6日前に被覆資材を除去し光線を当てて、収穫後は速やかに予冷するなど品質保持に努める。
- 2 多湿により病害の発生が懸念されるため、防虫ネット等で被覆しているものは、収穫前のネット除去による馴化により、通風を良好にするよう努める。
- 3 こまつなやみずなでは白さび病の発生が懸念されるので、ハウスやトンネルの通風を良好にするとともに、発生前から薬剤防除を行う。

## 果 樹

ほ場が湛水している場合は、溝掘りなど速やかな排水対策を講じ、根の活力を低下させないように努める。

### ◎なし

- 1 9月の降雨により、黒星病の発生が懸念されるので、10月から落葉直前まで、秋防除を計画的に実施する。

### ◎ぶどう

- 1 ぶどうでは収穫前に糖度や酸抜けの程度を食味調査し、適切な品質になってから収穫を開始する。

## 花植木

- 1 施設栽培では、晴天時の葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。また、多湿条件にあるため施設の換気を十分に図る（可能な場合は循環扇の24時間利用）。  
\*根の活性が低下している場合は、晴天時に急激な換気をするると返って葉焼けを助長することもあるので注意する。
- 2 湿害により根の活性が低下していると、生育・品質に影響が出るので、状況に合わせて葉面散布を実施し、生育・樹勢の回復を図る。
- 3 現在灰色かび病やべと病、さび病（キク類）等の発生しやすい環境にあり、今後高温になると炭そ病や苗立枯病等の発生も懸念されるため、発生状況に応じて薬剤防除を実施する。罹病した茎葉や株は感染源となるので、早期にほ場外で処分する。
- 4 軟弱な生育をしている場合は薬害を生じやすいので、薬剤防除を行う際には登録の範囲内で薬液濃度を低めにする等の配慮をする。

## 茶

- 1 降雨後の気温の上昇により炭疽病の病斑が拡大する恐れがあるので、炭疽病に弱い「さやまかおり」や茶株の一部に既に炭疽病の発生が見られるほ場では病斑の拡大を観察し、必要に応じて薬剤防除を行い炭疽病の蔓延を防止する。

◎農薬は最終有効年月までに、ラベルに記載されている適用作物、使用回数、希釈倍数・使用量、使用時期等を十分確認の上、使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>